# あおもり流速

代表理事会長 植村正治書

# 資源有限漁業無限

No. 136



# **CONTENTS**

| 「小型いか釣の安全操業を確保する青森県漁業者大会」開催 1                   |
|-------------------------------------------------|
| 「平成16年度青森県漁協組合長会議」開催 3                          |
| 「WTO・FTA対策緊急全国漁業代表者集会」開催 5                      |
| 自民党水産基本政策小委員会で J F 全漁連植村会長が水産業の現況について意見陳述 ・・・ 6 |
| 平成16年度「青森県豊かな海づくり大会」 開催 7                       |
| 第 4 回 「和船競漕大会」 開催 8                             |
| 「平成16年度東北・北海道漁協専務参事懇談会」開催 9                     |
| 「平成16年度油污染防除指導者養成講習会」開催10                       |
| 青森県内漁協合併進捗状況11                                  |
| 台風15号・18号による漁業被害状況12<br>浜の情報・話題13               |
|                                                 |
| 大型クラゲ出現状況                                       |
| 「RABまつり」にJF青森漁連出店                               |
| むつ小川原地域・産業振興財団の事業募集のお知らせ                        |
| 主な水産に関する動き(7~9月)14                              |
| 県内漁協紹介(三沢市漁協)15                                 |
|                                                 |





# いか釣の安 月森県漁 業者大会保まする

が開催された。 十月十一日 「小型いか釣の安全操業を確保する青森県漁業者大会」 月( 三沢漁港 (三沢市漁協市場) におい

て続けに二度も発生した。この事故は、安全操業を無視 の小型いか釣船に、沖合底曳網漁船が衝突する事故が立 した行動による事故であり、また、操業海域が輻輳してい この大会は、今年九月、 青森県太平洋海域にて操業中

ることが大きな要因であ 目的に開催された。 等を強く要望することを るため、漁場の棲み分け

つけた。 町長、 通村助役らも支援に駆け 木下大畑町長、 も含め約六百名が参加し 県外の小型いか釣漁業者 横浜風間浦村長、 たほか、 者や本県に入会している 大会には、県内の漁業 古川六ヶ所村長 鈴木三沢市長 浅見大間 田野東

小型いか釣の安全操業を確保する青森県漁業者大

甚宝丸 属の第三十八東弘丸(一六トン)の右舷側に側面衝突し、 はまもなく転覆。 最初の衝突事故は、 (一四四トン) が漁場に向けて航行中、 九月七日午前三時四十分頃、 夜いか操業中の下前漁協所頃、沖合底曳網船第六十五 第三十八東弘丸

業中の階上漁協所属の第十一新洋丸(四、九トン)の船尾に衝突し 五十五甚宝丸(一四四トン)が操業開始の準備中に直進した際、 新洋丸は大破した。 二回目の衝突事故は、

いずれの事故も幸いにして乗組員は全員無事救助された。

合する海域で、安心して操業できない状態にある。 本県太平洋海域は、

挨拶を述べる植村会長



大会では、冒頭、 植村会長が「近年、 以前から大臣許可の網漁業といか釣漁業の漁場が競 九月十一日午前六時四十分頃、 大臣許可の網漁業はいかを目的と 沖合底曳網漁船 昼いか操 来賓挨拶を述べる鈴木三沢市長

大会終了終 三沢漁港内で海上デモ 後、 台 風

0

最後に参加者全員が会会長)が朗読し、満 操業の確認 を述べた。 策を その は、 を代 者 邁進して行きたい」 並びに関係機関に強く要求し、 17 大会実行委員 た操 さらに、 の棲み分けなど抜本的 思える操業を許せな は か 題 た、 強く訴えた。 沢市長が来賓として挨拶 強く望む」と漁業者を代 が 表して挨拶。 実現に向け皆さんと共に 釣 に 沢市 漁業の持続安定等を国 底曳網漁船等の な 業 って 我々小型いか釣 漁業者の が多くな 漁協の高橋満潮 大会決議案を川 漁場の: (下北: きて 事 意見表明 続 故 棲み分け、 満場 と主催者 水 0 無謀と 産 発 漁業 な対 生が 場

組



最後に!

ルで

気勢を上げ

がシ

ユ

シュプレフコールを唱える三國副会長



漁

大会決議を朗読する川端委員



意見表明を述べる高橋組合員

## 決 会 大

我々沿岸漁業者は、漁場が形成される海域では、常に 競合している網漁業の驚異に脅かされ、事故の発生が大 いに懸念されてきたところである。

今般、三沢沖等の漁場において、いか釣操業中のいか 釣漁船に対して、底曳網漁船による二度の衝突事故は、 いか釣漁業者の生命と財産を脅かす極まりない行為であ り、強く憤りを覚えるものである。

網漁業と競合する漁場では、安心して操業できない状 態にあり、抜本的な対策が早急に必要である。

今後、このような事故が発生しないよう、下記事項を 強く求めるものである。

記

- 1. 安全操業の確保に関して、網漁業に対する徹底した 指導を行うこと。
- 2. 操業海域が輻輳していることが、事故の大きな要因 であると考えられることから、漁場の棲み分け等、 抜本的な対策を講じること。
- 3. 資源管理型漁業の徹底といか釣漁業の持続安定を期 すること。

以上決議する。

平成16年10月11日

小型いか釣の安全操業を確保する 青森県漁業者大会



拳を突き上げ訴える参加者



海上デモを行う漁船

# 

された。 協組合長会議」 本部主催による「平成十六年度青森県漁 安定対策協会と青森県漁業経営安定対策 去る九月三十日、 が水産ビルにおいて開催 (社)青森県漁協経営

ていることを強く呼びかけた。 必要性と、 営改革の手段として、 業経営の再編を目指すことを確認し 協になり得る、 市町村水産担当課長ら約百六十人が出 会議には、 漁協の経営基盤を確立するため 認定の期限が十七年度末に迫 県内各漁協の組合長、 広域に向けた漁協合併 県が認めた認定漁 漁

ばならない」と挨拶を述べた。 きな発展はない。 これまでの流れを踏襲していたのでは大 り支え得ることができるのは漁協である。 合併に向けた取組を加速していかなけれ 頭、 植村会長は「組合員の経営を守 漁協を強くするために

会議では最初に、 JF全漁連強化本部

て基盤強化と販売強化対策等、

関係者が

最初に、

西北水産振興会の山本政廣会

応え得るハマづくりのため、

合併を通じ

が多い。

将来を見据え、

組合員の負託に

や経営赤字の深刻化など解決すべき問題

地域差が大きいが、

漁協は組合員の減

合併の動きを説明し、

「合併の進展には

完遂に向けた取組方針に基づき、

全国の

の市村合併推進部長が、

JF合併構想の



義がなされた。

が重要である」と全国の事例を交えて講

力を合わせてビジョンを描いていくこと

主催者挨拶を述べる植村会長

われた。 したのに続き、 漁協の現状と合併推進状況について報告 続 17 て、 県漁連葛西指導部長から 海域代表の意見表明が行 本県

来賓挨拶を述べる山谷県農林水産部次長

表明した。 図り販売戦略を成功させることがトップ 家族の生活を安定するため、 しいハマの状況を打開し、 員の高齢化・減少、 として自立できる規模となるが、 研究会を設立した。 鰺ヶ沢町、 長 の使命と考えている」と合併への前進を 益が赤字の漁協がほとんどである。 千八百人、 (風合瀬漁協組合長)は、 岩崎村の三町村八漁協で合併 販売取扱四十億円と認定漁協 合併すると組合員数 魚価安などによる苦 組合員とその 組織拡大を 「深浦町 事業利 組合

なっている。 期の合併による経営の立て直しが急務と は、 負託に応え得るよう全事業の強化と、 原点に立ち返り、 格差などの問題解決に時間を要している。 十億円に半減、 (尻労漁協組合長)は、 また、下北水産振興会の川端昭治会長 生産額がピーク時の六十億円から三 しかし、 漁業就業者の高齢化等早 将来に亘って漁業者の 地域の事情や財務 「東通村八漁協で 経

> 断が必要である」と、広域合併の必要性 認定漁協になり得る広域合併の実現に決 営基盤の強固な漁協づくりを図るため、

を訴えた。

した後、 は期限がある。その機会を逃すことなく 統括し、 西崎副本部長 森県版アクション・プログラムの承認を その後、 青森県漁業経営安定対策本部 「合併促進法や認定漁協制度に 認定漁協制度の再確認と、 (県漁連副会長)が会議を 青

景 会 議 風

# 定された青森県漁協合併基本計画による したい。」と延べ、会議を閉会した それぞれの地域で真剣に話し合って欲 十五漁協の枠組みにとらわれることなく かなければならない。 組合長さん方の理解と努力をお願 平成十年度に策

互いに話し合いをしながら合併を進めて

:(社)青森県漁協経営安定対策協会·青森県漁業

青森県漁協

全国の合併状況を説明する全漁連市村合併推進部長

業と 会長 され ŧ れ 者 産 W 集会」 ば な 0 で 撤 訴 物 Τ け お 持 が 全 F な 廃 え 輸 0 ら 0 7 n 互 続 玉 全 大会で な 阻 11 ば 11 的 資 か が 漁 対 F < 去る七 なら 存続 源管 5 17 止 利 連 策 T 漁業者 用 協 は (社) Ι そ な で に 理 議 挨拶。 対 き つ 型 月 大日 Q 0 冒 17 会 よう 策 制 لح 漁 る 17 頭 **深**急全 0 十三 訴 業 度 貿 7 百 本 合 なこ え 易 0 は  $\mathcal{O}$ J 水 同 7 世 目 産 堅 ル 推 F が 主 玉 持 کے き 界 進 全 参 漁 催 を か ル 各 漁 加 自 業 5 L を 玉 漁 連 民 全 ŧ) 今 確 業 植 開 党 代 ょ な 0 玉 け 関 後 漁 資 催 本 表 立 村

るためそして 協 し 7 が 道 続 0 厳 あ 廃 水 J 17 る 黒 そ が 産 F 7 17  $\blacksquare$ れ 実 物 11 意 と述 によっ 現す 状 組 0 ぶ 見 Ė 況に 合 輸 り 表 噴火 明 本の 長 ベ れ た。 は が 7 ば あ が 湾 漁業を守るた 資 限 行 る。 輸 界だ。 な 源 出 漁 ま た 我 1] が 玉 協 わ 福 々 養 減 は  $\mathcal{O}$ れ 0 殖 尚 少 過 水 伊 漁 経 J す 度 産 藤 最 め 業 営 F る な 物 組 初 を は 危 漁 合 に 大 0 守 和 険 獲 関 北 極

> 員 最

シ

漁 性 を 税

l げ

> 閉 JV V で

を L が

海

と述 渉に 取 度 漁 で ま り 0 業 は L L なけ た、 あ 者 組 堅 J 7 たり 満 持 0 F も h 場 総意 全漁 自 で 等 れ 関 水産 民 ば 17 0 税 (党の くことを 致 貫 を 連 な 撤 徹 ら で 物 も 佐 廃 所 採 を 関 つ 々 な を 択 7 信 政 税 木 17 阻 し、 表明 確 撤 W 副 府 止 会長 認 廃 Τ では 述 L 業 強 阻 0 Ι 界 < 止 が Q F 保 が 求 制 全 T 利 寸 8 度 Ι る 決 水 А 玉 を 結 Q 交 制 産 0 議

会長 反 調 査会長 対 が 資 源 及び 管 理 桜井 0 必 要性 農林 を述 水産 物 貿 関 易 税 調

と I

Q

撤 査

廃

合

「 ろ う ユ 全 持 制 WTO·FTA対策緊急全国漁業代表

と話

後に

を 度

図

0

堅

挨拶するJF全漁連植村会長

# WTO・FTA交渉に対する決議

WTO交渉は、7月末の一般理事会において枠組み合意を目指す動きが出てきている。これまでの交渉経緯をみれば、昨年5月に当時のジラール議長が、水産物を関税撤廃分野に位置づけて以来、我々はこれに断固反対の姿勢で政府、与党に要請するとともに、民間外交を通じて外国のNGO・政府にも強くアピールしてきた。 その後、ジラール案は修正の後に参考扱いとなり昨年9月のカンクン閣僚会議に付され、現在、これが交渉のもととなっている。このため、再び水産物が関税撤廃の対象とされないか、強く懸念

されるところである。 累次の関税引き下げ、円高等により我が国には膨大な水産物が輸入され、デフレ経済の進行等と あいまって魚価が低落し、漁業経営はますます苦しさを増している。もはやこれ以上の関税引下げ・ 自由化を行えば漁業と漁村は崩壊に向かうと危惧する。 サラマー 毎日 東西マジマ諸国とのRTA が庭門な法が進みつつあり、水産物の関税引き下げ、

加えて、韓国、東南アジア諸国とのFTA政府間交渉が進みつつあり、水産物の関税引き下げ、IQ制度についても厳しい折衝が予想される。

ついては、全国の漁業者の総意をもってWTO・FTA交渉に当たり下記事項の貫撤を政府に対 し強く求める。

- WTO非農産品市場アクセル交渉において水産物関税撤廃、関税の一律削減を断固拒否すること 漁業・漁村の維持発展のため、漁業補助金の一律削減を阻止すること
- WTO・FTA交渉においては水産資源の持続的利用および漁業・漁村の維持・存続のため十
- 分な配慮を確保すること I Q制度を堅持すること
- 5. 漁業・漁村活性化に向けた大型政策を確立すること

以上決議する。

2004年7月23日

WTO・FTA対策 緊急全国漁業代表者集会

# 「合併の障害である旧債償却対策」などJF全漁連植村会長が水産業の現状について意見陳述自民党水産基本政策小委員会で

自民党の水産基本政策小委員会(浜田 自民党の水産基本政策小委員会)が十月二十七日、自民党本部で開かれ、JF全漁連植村正治会長は、水産業の現状について意見陳述をした。植村会長は陳述で、漁業の実態に合った金融対策の展開、IQ制度の堅持などを要望するとともに、漁協合併の問題では、合併の阻害要因となっている旧債のは、合併の阻害要因となっている旧債の増却対策などを強く求めた。

く厳しいものにしている。漁業の実態に 対策については「金融が浜の状況を著しる。許認可の整理を進め棲み分けがうまる。許認可の整理を進め棲み分けがうまる。許認可の整理を進め棲み分けがうまる。許認可の整理を進め棲み分けがうまる。許認可の整理を進め棲み分けがうまる。 対策については「金融が浜の状況を著しく厳しいものにしている。漁業の実施である。 はきわめて憂慮する状況だが、秩序ある。 がある。 がいる。漁業の実態に がいる。 を、 がいる。 を、 がいる。 がいる。 を、 がいる。 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を と。 

てほしい」と述べた。あった保証制度を含む金融対策を実現し

堅持を強く訴えた。 堅持を強く訴えた。 と述べた。その はかWTO・FTA問題ではIQ制度の はかWTO・FTA問題ではIQ制度の にか必にも旧債の償却について、何らか の配慮をお願いしたい」と述べた。その の配慮をお願いしたい」と述べた。その にかWTO・FTA問題ではIQ制度の と述べた。その

備すべき」などの意見も出された。
に対し、守るルールをこの際きちんと整調査し、漁民を守る対策を進めるべき」
調査し、漁民を守る対策を進めるべき」



意見陳述するJF全漁連植村会長(写真提供・水産経済新聞社)

## 仰ぎ、 公園」 及び漁場 去る七月十 成 が県内漁協や水産関係 + にお 盛 沿岸市町村長ら約三 六年 環境の保全等を推進する目的で、 大に開催され 11 度青森県豊かな海ブ 七日 て、 土 水産資 源の 青森 团 人の参 体 口 市 復と森林 つくり大 県議会 青 加 41 海 正

員会会長 大会実行 式典で はじ 挨 委 副  $\prod$ 主 大 が

植

村

会実行

理)

者

委員会

長

めに古い

主催者挨拶を述べる古川副会長

た後、 て、 来賓を代表し て、 長谷 Ш 青 森県 出 納

(三村青森県知事

代理)、

Ш

内青

森

県

また、

拶を

述 0

る実績を上げて 議会議長がそれぞれ祝辞 て長谷川出納長より「青森県水産大賞 本県 11 水 産 る 産業活性! 寸 を 体 述 化 の模範とな 個 一人に対

が

る

水

が贈られた。

また、 た。 む環境保全~」と題して浜の声を発 きれい 環境に 子 明さん 表彰に続い さん (AMLS協議会会長) 青森県漁協女性組織 な海を次世代に~ やさしい養殖漁業\_ (横浜 て、 町 漁協青年部監 青森県漁業 地域で取り 協議 士会の 題 会の 事 L が、 が 葛 表 て、 秋 組 西  $\coprod$ 

れた。 大会決議案を朗読し、 最後に、 坪田大会実行委員会幹事長が 満場一 致で採択さ

わ Ď, 式典 終了 後、 青森 市 内 0 幼 稚 袁 児も 加

ステム 流された。 ハとウス 海と繋 て 湾に Щ 千匹 □ 漁業 循 0 稚 環 E 復

魚約二

バ

ル

が

む

つ

ラメ

を 資

願

つ 0

源

受 彰 者

## 大 会 決 議

一大 「我 世界的に水産資源の減少が懸念される中で、我が国に大量の水 産物が輸入されていることから、資源の枯渇につながる無謀な操 業と無秩序な貿易の自由化には断固反対すると共に、水産資源を 永続的に利用するための国際基準を確立させる必要がある。 また、永続的な漁業を営むためには、漁場環境の保全はもとより森林の育成や河川の環境整備など、山・川・海をつなぐ水環境 システムを再生・保全し、安全・安心で良質な水産物を売り込ん でいく「攻めの水産業」を推進することが重要な課題である。 よって、私たちは、青森県の豊かな自然と水産業を後世に継承 するため、 1.水産資源の回復を図り、水産物の無秩序な貿易自由ルを阳山

- 水産資源の回復を図り、水産物の無秩序な貿易自由化を阻止 、水産物を永続的に利用するためのルールを確立させる。 森林・河川・並びに漁場環境の保全を図り、安全・安心で豊かな水産物を安定的に供給するための体制づくりを推進する。
- 消費者が求める、安全・安心で良質な本県の水産物を売り込 「攻めの水産業」を推進する。

平成16年度青森県豊かな海づくり大会の開催にあたり 私たち県民が一丸となって「資源回復と環境保全」に取り組むこ とをここに決議する。

平成16年7月17日

平成16年度青森県豊かな海づくり大会

に終了し 手により青い 会大会記念植樹」 平成十六年度青森県豊 Ö 若木が植えられ、 た。 海公園内の敷地にナナカマ とし 大会は盛会のうち て、 か 大会関 な海 づ 係者 < り 大 0

佐藤信-後藤 賀 夫 (野辺 棄 内 町 地 漁 Ш 協浦 漁協組合長 田支所常任理 事

0

ŋ

青森県水産 とお

大賞」

受賞個

一人及び

寸

体

は

石水産 |漁業協| 同 組

催されますので、

き起こっていた。

来年以降も引き続

和船競漕大会が

から拍手や笑いが巻

た戦いとなり、

観客

ら転落する等白熱し

的な行事を育てることを目的として、 行事を継続的に実施することにより、 対抗競漕等を実施し、 生によるボート競技や和船とクルマガイ(車櫂)を使用した職場 アピールしていくために、今大会からは一般参加者の募集を行なっ チームが参加し、第四回「青森県和船競漕大会」が去る七月十七 た結果十一チームの参加があった。 和 青森市「青い海公園」で開催された。この大会を県民に広く 船による漁業及び海上交易が盛んであった往時を偲び、 櫂を漕ぐ技法の伝承を図るとともに、 今年も県内各地から二十三 青森県の夏の風物詩 この 小学

が収蔵していたものを使用した。 に広く使われていた木製の小船で、 和船は、 昭和三十年代頃まで、県内でコンブやエゴノリ漁など 「みちのく北方漁船博物館」

者は で和船を二百m走らせたが、 命こぎ過ぎて、 は手に汗を握る展開となった。また、 参加者は四人一チームとなり、 車櫂」 の操作にもある程度慣れてきたこともあり、 船か 今回は四回目ということもあり参加 独特のこぎ方を用する「車 出場チームの中には レース 生懸 權

主催者の挨拶を述べる西崎副会長

和船競漕風景



漁協の部優勝 後潟漁協チーム

(漁協チーム) (レース結果は次のとおり)

準優勝 野牛漁業協同組合 後潟漁業協同組合 **舮作漁業協同組合** 

一般チーム】

勝 北斗の拳漁連 (JF青森漁連

第三位 準優勝 鳥海丸

発攻打丸 (ヤマウ鳥谷部商店) (青森市役所港湾河川課



般の部優勝 北斗の拳漁連チーム



いて、 北・北海道漁協専務参事懇談会」が開催 等百五十人が出席し、 された。 去る八月十九日、 東北、 北海道の漁協の専務、 宮城県志津川町にお 「平成十六年度 東 参事

参事会 懇談会開催にあたり、 芳賀長恒会長が主催者を代表し、 宮城県漁協専務



うことにより、 だきたい」と挨拶を述べた。 の振興と漁協経営の発展に努力していた 北海道の各漁協専務参事が意見交換を行 況にありますが、 産物の増大による魚価の低迷等厳しい状 激動する漁業環境については、 より研鑚を深め、 懇談会において、 水産業 東北・ 輸入水

③岩手県

「活力ある漁業の構築を目指して」

相坂

泰史 氏

ら見た水産物の流通について」と題して、 基調講演では「ジャーナリストの目か

> 発表が行われた。 を頂いた後、 水産経済新聞社 その後、 安成梛子社長から講演 各道県による事例

ら、 開や現在のシジミに対する資源管理型漁 の隣接地へのごみ焼却施設の建設計画か 業への取り組み等について発表を行った。 三湖の漁場環境保全」と題して、 事例発表 テーマ 青森県からは、 白紙撤回までの漁業者らの運動の展 「漁業者の団結力で勝ち取った十 十三漁協の相坂泰史参

対策等について」提案がなされ、

加者の総意をもって決議採択された。

①北海道 「活力ある漁業の構築を目指して」 「漁業経営安定対策等について」 北海道漁協専務参事会

② 青森 県 「漁業者の団結力で勝ち取った十 三湖の漁場環境保全について」 会長 三漁 協 織田 勝二氏

田老町漁協 岩手・田老町漁協の 取り組みについて

には、

小林 昭栄 氏

> て <u>
> </u>
> 、 ら「アワビのタグ装着の取り組みについ ④宮城県 共通対策提案事項については、 また、北海道から「漁業経営安定 「気仙沼市魚市場における電子 気仙沼漁協 入札の導入効果について」 常勤監事 伊藤 宮城県か



万歳三唱する金野会長

道県の参加者が親睦を深め合い、 会長から万歳三唱が行われ、 懇談会終了後、 青森県漁協専務参事会 金野英幸 交流会が開催され、 盛会のうち 閉会時

# 平成16年度油污染防除指導者養成講習会



来賓挨拶を述べる宮澤課長補佐

守有食风辆省 場油濁被害救济基金

主催者挨拶を述べる植村理事長

われた。

拶を水産庁増殖水産部漁場 催者の挨拶を述べ、 始めに、植村理事長が主 来賓挨

参加した。

建設関係者等約百五十名が

消防署職員、

漁港

2

容で講習が行われた。 源課宮澤課長補佐が述べ、 次の

講習内容

いて 「簡単で効果的な油防除法に

財団法人漁場油濁被害救済基 油濁事故への対応について」 藤井 真一業務部1

金主催)

が開催され、

県内

法人漁場油濁被害救済基

漁協職員、

県・市町村防災

防除

指導者養成講習会

て、

平成十六年度油汚染

及び平内町小湊漁港にお

九月七日

平内

町

海上防災事業者協会 淑夫事務 局

3

相川

らは小湊漁港において実地訓伴い海上は強風であったが、また、当日は、台風18号の 水槽実験」 当日は、 海運産業株式会社 海 :運産業株式会社 坂本 相川 おいて実地訓練が行であったが、午後か午風18号の接近に 由之海上防災アドバイザー 敬代 2表取締

相

Ш

講習会参加者



ロール状マットを使っての油回収



柄杓で油回収を行う受講者

# 県内における原因者不明油事故(昭和50年~平成15年)

| 761 110 00   | 17 0 冰四日 1 7 1 四 争  | <del>以(山加00十 「1%10十</del> /  |
|--------------|---------------------|------------------------------|
| 発生年月日        | 油漂着場所               | 概要                           |
| S 53. 8. 9   | 八戸鮫浦白浜海岸            | 液状の油が海岸に漂着                   |
| S 54. 4.29   | 風間浦村海岸              | B重油状の油が海岸に漂着、フノ<br>リに被害      |
| S 55. 6.20   | 小泊村地先海岸一帯           | オイルボールが海岸に漂着                 |
| S 57. 10. 7  | 小泊村地先海岸一帯           | オイルボールがゴミとともに漂着              |
| S 59. 1.10   | 佐井村地先海岸一帯           | C 重油と思われる油が海岸に漂着、<br>岩ノリ等に被害 |
| S 59. 7.26   | 平内町沖合海上             | 海上に重油と思われる油膜が漂流              |
| S 59. 8. 20  | 小泊村地先海岸一帯           | オイルボールが海岸に漂着                 |
| S 59. 10. 30 | 竜飛~車力村の海岸一帯         | 大量の柔らかいオイルボールが海<br>岸に漂着      |
| S 60. 7.21   | 十三・脇元地先海岸           | オイルボールが海岸に漂着                 |
| S 63. 4.23   | 佐井村地先海岸一帯           | C重油が海岸に漂着、定置網等に被害            |
| S 63. 6.15   | 八戸市南浜地先海岸一帯         | 廃油状の油が海岸や漁港に漂着               |
| H 2. 4. 2    | 大畑漁港沖合海面            | 廃油と思われる油が漂流                  |
| H 4. 12. 25  | 下北半島及び日本海沿岸一<br>帯   | 大量のオイルボードが海岸に漂着              |
| H 5. 2. 5    | 平内町茂浦漁港沖合及び地<br>先海岸 | 廃油が漂着及び漂流                    |

として、

ます。

十四年度までで一市町村一

漁協計

画は八地区で研究会が設立されたものの、

まとめ、

# 课内漁協合併進捗和



むつ市、川内町、脇野沢村3漁協合併研究会設立総会 H16. 9. 27

進を図っているところであ 県内六十四の漁協 平成十年に策定され第一 漁協の実現に向けて合併の推 併を目指す構想で、 ごとに十五の枠組みで広域合 を十五の漁協とする複数自立 種別漁協) 市町村一漁協にする計画で、 青森県漁協合併基本計画は、 平成十九年度までに海域 平成十四年度までに さらに第二段階とし を三十四の漁協に (沿海・ 県内漁協 段階

> おります。 上の優遇を受けられる期限も押し迫って 認定漁協制度の期限は十七年度末と制度 合併実績はなされていない状況です。 合併促進法の期限は十九十区年度末、

ん。 足腰の強い漁協づくりの手段として早急 の改善を図り、 に漁協合併に取り組まなければなりませ 漁協の経営状況を再度見直し、 漁業者の負託に応え得る 問題点

れている地区は次のとおり。 現在、 東通村漁協合併研究会(8漁協参加 広域の枠組みで研究会が設立さ

)平舘村・蟹田町・蓬田村三漁協 平成十三年十二月二十五日設立 猿ケ森・小田野沢・白糠 石持・野牛・岩屋・尻屋・ 尻労・

)鰺ヶ沢町・深浦町・岩崎村漁協 平成十六年 平舘村· 蟹田町· 蓬田村 三月三十一日設立

合併研究会(3漁協参加

大間越・岩崎村・舮作・深浦

合併研究会(8漁協参加)

むつ市・川内町・脇野沢村漁協 平成十六年 風合瀬・大戸瀬・鰺ヶ沢・赤石水産 四月三十日設立

平成十六年 むつ市 ・川内町・脇野沢村 合併研究会(3漁協参加) 九月二十七日設立

三厩村・今別町四漁協 合併研究会(4漁協参加

平成十六年十月 今別町西部 三厩村・ 竜飛・今別町東部 八日設立





高波により舮作漁協事務所迄の道路が浸水



舮作漁協作業保管施設が高波により倒壊・流失

# ● 台風15号による漁業被害状況

〔漁協関係〕

| 組合名     | 被害状況                                                    |
|---------|---------------------------------------------------------|
| 大間越漁協   | 底建網一部流失                                                 |
| 岩崎村漁協   | 船5隻破損、時計はかり5台流失、パレット10枚位流失、組合施設一部破損、底建網76ヶ統中50ヶ統位流失及び破損 |
| 深浦漁協    | 旧漁協の屋根一部破損、又、壁一<br>部破損、底建網は7ヶ統網の破損                      |
| 風合瀬漁協   | 施設被害なし、20ヶ統位中4ヶ統<br>流失及び破損                              |
| 大戸瀬漁協   | 施設被害なし、小型定置破損                                           |
| 下 前 漁 協 | 港内において1隻転覆、荷捌所事<br>務所浸水                                 |
| 大 間 漁 協 | 港内において1隻浸水(沈没)                                          |

# [定置網関係]

| 定置網漁業者名             | 被 害 状 況                                                                                                                           |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (有) 西崎水産<br>(大型定置)  | アンカー4~5本、サンドバック<br>1,000袋破損                                                                                                       |
| 古 川 漁 業 部<br>(大型定置) | サンドバック5,000袋及びドア網<br>が破損                                                                                                          |
| 徳 田 漁 業 部<br>(大型定置) | 被害:道網、登り運動場、箱網サンドバック、ロープ他                                                                                                         |
| ㈱ ホ リ エ イ<br>(大型定置) | 西定第2号(岩崎村)<br>被害:手網、ワイヤー、ロープ、<br>サンドバック他<br>西定第3号(岩崎村)<br>被害:箱網、ワイヤー、ロープ、<br>サンドバック他<br>西定第10号<br>(深浦町)被害:手網、ワイヤー、<br>ロープ、サンドバック他 |
| 横磯漁業生産<br>組合(大型)    | 被害:箱網、手網、型一式破損、<br>サンドバック、ロープ、他                                                                                                   |
| 制 黒 滝 商 店<br>(大型)   | 被害:箱網・手網破損、障子網、<br>サンドバック、他                                                                                                       |
| 鰈の澗定置組<br>合 (小型)    | 被害:箱網・手網一部破損、サンドバック、ロープ、他                                                                                                         |

# ● 台風18号による漁業被害状況 「漁協関係」

| 組合名     | 被害状況                                                                   |
|---------|------------------------------------------------------------------------|
| 岩崎村漁協   | 漁具、資材保管施設破損、購買資<br>材倉庫(プレハブ)破損、船小屋<br>1棟破損                             |
| 舮 作 漁 協 | 組合事務所内に海水浸水、作業保<br>管施設倒壊・流失<br>(西崎漁業部の陸揚げしている定<br>置網が破損)               |
| 深浦漁協    | 横磯荷捌所の屋根破損                                                             |
| 風合瀬漁協   | 船揚げ小屋1棟破損                                                              |
| 大戸瀬漁協   | 船外機1隻流失                                                                |
| 下 前 漁 協 | 仲買人控室に海水浸水、船小屋4<br>棟破損                                                 |
| 小泊漁協    | 船1隻(船首に設置している係留<br>用の柱が破損)                                             |
| 三厩村漁協   | 上宇鉄の活魚施設のシャッターと<br>窓ガラスが破損                                             |
| 今別町東部漁協 | 漁船1隻転覆・2隻横転                                                            |
| むつ市漁協   | 漁協施設破損(シャッター6ヶ所、<br>外壁3ヶ所)                                             |
| 佐井村漁協   | 本 所:加工場の一部シャッター<br>及び窓ガラス破損<br>福浦支所:陸揚げした小型漁船<br>21隻横転<br>福浦支所:船小屋4棟破損 |
| 奥 戸 漁 協 | 船揚げしている1隻(船外機) 横<br>転                                                  |
| 大 間 漁 協 | 市場で使用している水槽1基流失                                                        |
| 大畑町漁協   | 倉庫の屋根一部剥がれる                                                            |
|         |                                                                        |

※この度の、台風で被害に遭われた皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。

# 浜の情報・話題

# 「RABまつり」にJF青森漁連出店

9月19日(日)  $\sim$ 20日(月) の2日間、青森市アスパム裏広場で行われた「RABまつり」にJF青森漁連からも出店し、「青森ほたて・いか・さけ」等を格安にて販売。

来場者は、初日26,000人、2日目21,000人で、ほたて・いか焼きは、焼いているのが間に合わないほどの大盛況。



# 大型クラゲ出現状況

今年の大型クラゲ出現状況は、大量来襲し 多大な漁業被害を与えた昨年、一昨年に比べ、 殆ど入網していない状況で、漁業関係者は一 応にホットしています。

なお、引き続き今後の出現動向に十分注意 をされたし!

# [今年の出現状況]

| 10月8日  | 深浦沖   | 1 固体 |
|--------|-------|------|
| 10月17日 | 尻労沖   | 1 固体 |
| 10月19日 | 六ヶ所沖  | 1 固体 |
| 10月20日 | 深浦沖   | 1 固体 |
| 10月22日 | 三沢沖他  | 3 固体 |
| 10月24日 | 深浦沖   | 1 固体 |
| 10月28日 | 深浦沖   | 2 固体 |
| 10月29日 | 深浦沖   | 2 固体 |
| 10月30日 | 北金ヶ沢沖 | 5 固体 |



# むつ小川原地域・産業振興財団の事業募集のお知らせ

財団法人むつ小川原地域・産業振興財団は、平成元年3月の原子燃料サイクル事業者の協力の下、青森県によって設立され、県内各地の産業振興や地域づくりの活動に幅広く支援しており、平成17年度の支援事業を次のように募集しています。

○助成事業 人材育成事業 (先進地視察研修・講習会など)、技術開発事業 (加工等の技術開発など)、商品開発事業、市場・販路開拓事業、観光開発事業、環境整備事業、スポーツ・文化交流事業、その他地域の活性化及び産業の育成・近代化に寄与する事業

○助 成 金 事業費の5分の4以内、助成限度額は1件当たり2百万円

○助成対象者 県内の市町村、産業団体(漁協など)、地域団体(地域づくり、文化活動等に取り組んでいる組織・グループ)

○募集期間 平成16年10月1日~11月30日 (期限厳守)

○応募方法等 市役所(役場)総務課・企画課または財団にご相談ください。

○応募先財団法人むつ小川原地域・産業振興財団 〒030-0861 青森市長島2丁目10-4 (ヤマウビル7F) TEL 017-773-6222 FAX 017-773-6245

ホームページ http://www.jomon.ne.jp/~mozaidan/

# 主放水道区與する動き(7月~9月)

| 7月             | 事項                       | 場所  |
|----------------|--------------------------|-----|
| 2 (金)          | 平舘・蟹田・蓬田地区漁協合併研究会        | 蟹田町 |
| 9 (金)          | ほたて供養祭、むつ湾漁業振興会通常総会      | 青森市 |
| 12 (月)         | 青森県漁村活性化対策協議会            | 青森市 |
| 16 (金)         | 青森地区漁協合併小委員会             | 青森市 |
| 17 (土)         | 第4回和船競漕大会                | 青森市 |
| 17 (土)         | 平成16年度青森県豊かな海づくり大会       | 青森市 |
| 21 (水)         | 青森県漁船海難防止・水難救済会通常総会      | 青森市 |
| 21 (水)         | 青森県さけます増殖振興協会通常総会        | 青森市 |
| 21 (ZK)        | 青森県さけ流通振興協会通常総会          | 青森市 |
| 23 (金)         | WTO・FTA対策緊急全国漁業代表者集会     | 東京都 |
|                |                          |     |
| 8月             | 事項                       | 場所  |
| 5 (木)          | さけます資源管理連絡会議             | 札幌市 |
| 6 (金)          | 全国漁政部課長会議                | 東京都 |
| 17 (火)         | 対EU輸出ホタテガイ出荷管理研修会        | 青森市 |
| 18 (水) ~20 (金) | 平成16年度東北・北海道漁協専務参事懇談会    | 宮城県 |
| 23 (月)         | むつ市・川内町・脇野沢村漁協合併推進会議     | むつ市 |
| 25 (水) ~27 (金) | むつ湾漁業振興会先進地視察研修          | 北海道 |
| 30 (月)         | コンブ・ホタテ・カキ等対策漁連会議        | 東京都 |
|                |                          |     |
| 9月             | 事項                       | 場所  |
| 1 (水) ~2 (木)   | 合併等推進全国会議、合併実務研修会        | 東京都 |
| 3 (金)          | 青森県漁協組織緊急対策専門委員会         | 青森市 |
| 7 (火)          | ほたて広場新築工事安全祈願祭           | 平内町 |
| 7 (火)          | 油汚染防除指導者養成講習会            | 平内町 |
| 19 (日)         | ほたての祭典2004               | 平内町 |
| 25 (土)         | 八戸沖合底曳船漁撈長と小型イカ釣船漁撈長懇談会  | 三沢市 |
| 27 (月)         | むつ市・川内町・脇野沢村3漁協合併研究会設立総会 | むつ市 |
| 28 (火)         | 全国連合会指導担当部課長会議           | 東京都 |
| 30 (木)         | 平成16年度青森県漁協組合長会議         | 青森市 |

# 県内漁協職員紹

三沢市は、東南部に位置し、東は太平洋に臨み、西は小川原湖に接し 東西11km、南北25km、面積119.97km2の長方形で、人口44,071 人。1958 年、県内7番目の市となっております。

三沢市は全国でも有数の飛行場施設を備えている空の町で、戦前は海 軍航空基地として、戦後はアメリカ空軍基地の街として活性化し、1931 年には、淋代海岸を離陸した米国のミス・ビードル号が太平洋無着陸横 断飛行に成功。2003年8月には、県立航空科学館がオープンしております。 今回は、第10回全国豊な海づくり大会(平成2年7月22日)が行われた 三沢漁港(第三種漁港)でサケや昼いかの水揚げに大変忙しい「三沢市 漁協」の皆さんをご紹介致します。



- 1. 氏 名
- 2. 担当業務
- 3. 趣味·特技
- 4. 自己 P R
- 1. 山崎文男
- 参事 庭を手入れしてバー ベキューするのが楽
- しみ、温泉も髪はぬけはじめて分 る、大事なものだと、 暑さ、寒さが一日一 日増す度に感じる年

になりました。



- 1. 安部晴仁
- 2. 市場部長
- 3. 新海物語M56フルス ペック
- 4. 日々、魚群を追跡し ています。



- 1. 田村良子
- 2. 総務課長
- 3. 花を見たり植えたり すること
- 4. 体脂肪が多いので運 動を心がけているが 長続きしない。3日 坊主。



- 河村周吉 信用課長
- ゴルフ少々、娘のバ レー応援
- 趣味に過剰なまで熱 が入り、自宅の畳に は穴をあけ、隣家の屋根はガラスまでも 犠牲に、あまけに四 十肩に。



- 1. 河村義徳
- 2. 業務課長
- 3. パチンコ 年間の損 料123万円位
- 4. シバ犬を飼育してい ます。御利用の方は 河村迄。



- 1. 工藤 勇
- 2. 販売課長
- 3. 食べること
- 4. 特になし



- 1. 白銀国彦
- 2. 業務課長補佐
- 3. 庭、柴犬
- 4. 特になし



- 1. 和田ユキ子
- 2. 業務課係長
- 3. 花に水をあげる事
- 4. 毎日、ダイエットし なければと思いなが ら、ついつい食べて しまう、意志の弱い 人です。



- 1. 千葉由紀子
- 2. 販売課係長
- 3. 特になし
- 4. 何もないのがとりえ です。



- 1. 河村
- 2. 総務課係長
- 3. 温泉めぐり、 ン食べ歩き、旅行
- シ良へずさいがり 今年の末までには煙草をやめ、来年ははりウォーキングをはじめ健康管理につとめたかと思っております。 す。



- 1. 宮古祐子
- 2. 信用課主任
- 3. インターネット、通
- 4. 年令不詳女を目指し、 日々がんばっていま す。



- 1. 河村弘行
- 2. 業務課主任
- 3. サッカー
- 4. 仕事後、休日等は小 学生とサッカーやっ てます。



- 1. 柿本繁輝
- 2. 業務課係
- 3. 競馬、パチンコ、ゴルフ、スノーボード
  - ゴルフでホールイン ワンを出したのに14 3打でまわったせい か「ナイスイーグル」 と言われた。



- 1. 高橋 学
- 2. 販売課係
- 3. 特になし
- 4. 特にありません。



平成16年11月20日発行 〒成104年17月20日末17 今発 行今 **青森県漁業協同組合連合会** 青森市安方一丁目1番地32号 TEL 017-722-4211代) ◇印 刷◇ 不二印刷工業㈱ TEL 017-741-5439